

3 年間基本計画

(1) 令和6年度の研究より

●令和6年度研修会主題：「学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方」

●研修会主題に迫るための視点

視点①：子どもが自ら問いを見だし、主体的に学び続けることができる単元づくり

(吟味する点) 子ども一人ひとりのみとりを生かして行った手立てによって、どの子ども主体的に学び続けている単元になっていたか。

(手立ての例) 教材吟味 主体的な学びをつなぐ単元構想図や資料計画
ふり返りの分析 児童の実態把握など

(検証方法の例) 資料や発問の整理分析 実際の流れの検証 抽出児を設定し変容を検証
一人ひとりのふり返り一覧から検証など

視点②：個を生かし、協働的に学びを深めることができる授業づくり

(吟味する点) ①子どもたちの実態に沿い、問題意識のもとに成立した学習問題になっているか。
また、その学習問題が協働的な学びを通して社会的事象の意味等に迫るものになっていたか。

②教師の指導性(手立て)は個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現するために有効であったか。

(手立ての例) 座席表 資料提示 板書 問い返し 発問 ふり返り

(検証方法の例) 前時や本時の授業記録分析 学習問題に対する子どもの考えのみとり
実際の資料・板書の検証 授業記録(児童の発言が分かるもの)の分析

成果

- 二つの視点で実践・分析をすることで、単元全体を通した子どもの学びの深まりを検証しつつ(視点①)、子どもが学びを通して本質に迫れているかどうかを子どもの具体的な姿から検証することができた。
- 学年部会ごとに、視点の中でも特に大切にしたいことを明確にすることで、横浜市らしい単元づくりを進めたり、学年の実態に応じた体験的な学び・人との出会いを大切にしたりすることができた。

【視点①】

- 単元の導入で具体的な事実や人との出会いを意図的に設定することで、子どもの問いや学習意欲を生かした「単元を見通す学習問題」をつくる実践が多く見られた。
- 子どものみとりを生かして学習計画を立てることで、本気の学習問題に向けて学びが関連付けられ、子どもの学び続けることを促すことができる単元づくりの在り方についても、注目児童を設定することで、子どもの学びの姿から、その学習過程の価値について具体的に検証することができた。

【視点②】

- 単元を通して積み上げてきた学びを生かしつつ、教師が意図をもって資料提示したり、揺さぶるような問いを投げかけたりすることで、単元の本質に迫るための「本気の学習問題」につなげることができた。
- 個を丁寧にみとり、みとったことを生かして発問したり資料提示したりする等、「個を生かす」の視点についてはより具体的にその価値や大切さを共有することができた。

課題

- 浜小社研として目指す「学び続ける子どもの姿」「協働的に学ぶ子どもの姿」について、子どもの具体的な姿を丁寧にみとって、協議会の中で十分に検証することができていなかった。
- 学習問題について、「子どもの思い」「教師の意図」どちらかに偏りすぎるのではなく、「子どもと教師が一緒につくる」という考えをより大切にしていきたい。みんなで話し合って解決する価値のある学習問題を子どもと教師がつくること、協働的な学びの必要感につながっていくと考える。

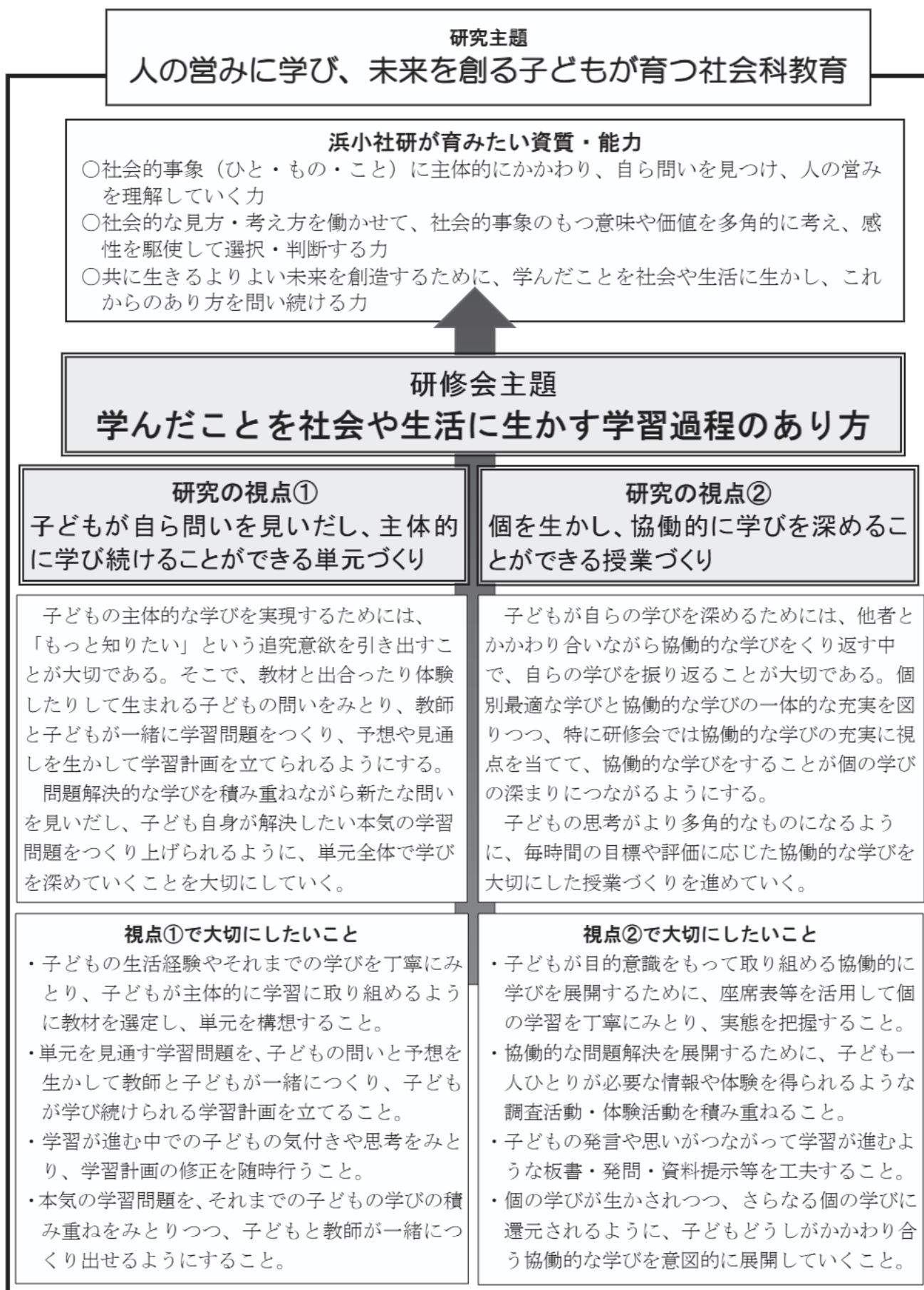
【視点①】

- 子どもが主体的に学び続けることができる学習問題・学習計画を、子どもの思いまたは教師の意図だけでなく、教師が子どものみとりを生かしつつ、子どもと一緒につくっていくようにしたい。
- 研修会の中で、どのような単元構成にすると子どもが主体的に学び続けられるのかについて十分に検証することができなかった。単元を通して学び続ける力を高めるためにも、注目児童が単元を通してどのように変容したのか、そのために教師がどのような手立てをとったのかに、より重点を置いて協議したい。

【視点②】

- 「協働的な学び」の価値を見いだすためにも、注目児童が他の児童とどのようにかわり、その中でどのように考えや行動が変容していったのかを、座席表等を活用して検証していけるようにしたい。
- 子どもが必要感をもって協働的に学び合うことの価値を見いだすためにも、社会科の学習だからこその協働的な学びの在り方について、実践を通して具体的に検証していきたい。

(2) 令和7年度の研修会主題について



(3) 今年度の研修会主題とそのとらえ

これまで、子どもたちが社会的事象をじっくり見つめ、そこから生まれる問題意識をもとに、学習を展開することを大切にしてきた。その学習過程では、子どもが自ら調べたり話し合ったりしながら、考えを広めたり、深めたりし、社会的事象がもつ意味や特色をとらえることをねらってきた。このことは今後も継承し、大切にしていこう。

「学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方」を研修会主題とした研究を平成30年度より継続してきた。その成果として、「子どもが主体的に、数時間先の見通しをもって学習に取り組めるような学習計画」、「子どもが主体的に解決に取り組む学習問題」を大切に授業の実践を積み重ねていくことができた。

一方で、学習計画や学習問題が子どもの実態とかけ離れていたり、学習問題を解決するための協働的な学びが学級全体での話し合い活動のみに終始してしまったりするといった課題も明確になってきた。

そこで、今年度の研修会主題を「学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方」として昨年度までの成果を継続しつつ、「子どもが主体的に学び続けることができる学習計画・学習問題が生まれる単元」や「個の学びが深まる協働的な学びを大切に授業」について、より重点をおいて研究を進めていく。

「学んだこと」とは、子どもたちがもつ問題意識を中心として社会的な見方・考え方を働かせて追究していく過程において育成される公民としての資質・能力の基礎を指す。「社会生活の理解に関する知識及び社会的事象について調べまとめる技能」「社会的事象の特色や意味などを多角的に考える力、社会へのかかわり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、議論したりする力」「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度」、そしてそれらが培われる過程で子どもが身に付ける学習方法である。

「社会や生活に生かす」とは、学習の中で育成される資質・能力を生かして、「次の学習でも同じように調べてみよう。」と学習方法を新たな学習へとつなげたり、「〇〇の学習では～だったから、もしかしたら△△でも～かな。」と獲得した概念的な知識を次の学習でも活用できないか考えてみたり、自分たちの生活のあり方やこれからの社会の発展などについて考えたりするなどして、次の学習や自分たちの生活へとつなげようとするのである。

「学習過程のあり方」とは、子どもたちが主体的に学び、自分の考えを深め、学んだことを今後の学習に生かしていく学習の流れを指している。まず、生活経験・既習事項など子どもの実態を踏まえて導入を工夫し、それらと異なる事実と出合うことで生じる子どもの意外性を導き出し、追究意欲が高まったところから生まれた子どもの問題意識を大切に「単元を見通す学習問題」がつくられる。そうしてつくられた学習問題を解決するためにはどのような学習が必要か、予想をもとに数時間分の学習計画を立てていく。さらに、その学習の中で子どもが矛盾を感じる社会的事象に出合ったり、友達と意見が違ったりして子どもの思考が揺さぶられることで疑問が深まり、「本気の学習問題」が生まれ、その追究過程で社会的事象の意味等に迫っていく。この学習過程には、必要に応じて計画を見直したり修正したりしながら自らの学習を調整する場面、単元の終末に学びをふり返り、社会生活に生かしたり、選択・判断したりする場面も含まれる。

こうした学習過程の中で、「個の学び」を大切にしつつ、「協働的な学び」を行うことが、物事をより多角的にとらえたり、様々な人の立場に立ったものの見方・考え方を身に付けたりできる子どもを育てることにつながっていくようにしたい。ここでの協働的な学びとは、学級全体での話し合い活動だけでなく、調査活動・体験的な活動の中で他者とのかかわり、問題解決の過程でペアや少人数グループで対話を交わしたりする等、様々な活動の形態が考えられる。今年度の授業実践の中でも、「協働的な学びのあり方」について試行錯誤しながら、市社研らしい「個の学びが生かされ、個の学びに還元される協働的な学び」のあり方を探っていきたい。

「単元を見通す学習問題」 ○子どもが、主体性をもって取り組む場面からスタートする学習問題。学習計画を立て、子どもが2時間先、3時間先を見通して調べたり考えたりできるようにする。	全小社神奈川大会で提起した学習問題の定義	「本気の学習問題」 ○教師がその単元で、「この社会的事象の意味について考えてほしい」とする学習問題。 ○それまでの子どもの追究からつながるよう、子どもの主体性を大事にした学習問題。
--	-----------------------------	---

(5) 研究・研修活動

- ① 毎月1回定例研修会を行う。(内容は学年別研修会や講演会等)
- ② 研究内容と活動の方向性については、研究推進部や支部長会、幹事会で検討し、研究内容の具現化を図る。
- ③ 幹事による研修を充実し、幹事としての力量を高め、本部・支部の研修内容を高める。
- ④ 研究発表大会、支部長会、幹事研修会、神奈川県小学校教育研究会社会科部会・学年別研修会等を通して、研究の交流、情報交換の場を充実し、研究の活性化を図る。
- ⑤ 研究主題に関する考え方の深化発展を目指し、各種講演会を開催し実践に役立つようにする。

(6) 研究組織及び活動

会の運営のために、次に示す部会を設置したり、活動を行ったりする。

① 学年別研修会

3年、4年、5年、6年の4部会を設置する。全ての会員で構成し、部長・副部長をおく。授業実践を通して、研究主題・研究内容等についての事例研究並びに理論的研究を進める。

② 支部長会

各支部の支部長及び役員で構成する。研究計画、諸行事、研修会の運営が円滑にできるよう調整を図るとともに、本部と支部、及び支部相互の交流と調整を進める。

③ 幹事会・幹事研修会

市幹事全員と役員で構成する。研究計画の審議や決定を行うとともに、幹事の力量を高める研修を行う。また本市研究会の推進役としての自覚をもって、研究活動の系統立った発展に努める。

④ 研究推進部

定例の研修会、研究発表大会、神奈川県小学校教育研究会社会科部会主催の学年別研修会に向け、会員が積極的及び、充実した実践提案ができるように支援するとともに、会員相互の交流を通して、社会科研究の深化を図ることができるよう努める。研究の成果や課題を明確にし、系統立てた研究発展に資する。

- ・研究推進部長、副部長、学年別部会の部長・副部長及び役員で構成する。
- ・研究活動の推進調整、並びに理論構築を図る。
- ・学年別研修会の円滑な運営と充実を担う。
- ・アンケートを作成、集約し、研修会の振り返りに生かす。
- ・研修会の内容を「研修会記録」にまとめ、情報部と連携して会員に発信し、周知する。また各実践提案をまとめた「研究集録」を作成し、年度末に全会員に発信する。

⑤ 情報部

市幹事と役員で構成する。研究主題に基づく研修活動から活動方針・内容に関する理論的示唆を受け、実践研究の充実のために役立つ情報を広く提供していく。「視察研修会」「講演会」「研究発表大会」のプロジェクトを構成し、部長・プロジェクトリーダーが中心となり、担当役員と相談しながら、主体的かつ創造的な活動を行うよう努める。また、ホームページの更新・会報の発行を行い、社会科教育に関する情報や研究の成果・内容などを会員および各学校に広める。

⑥ 社会科授業づくり部

市幹事と役員で構成する。社会科研究に新たな志をもって臨み、互いの実践について話し合ったり、これまでの優れた実践記録を読み合ったりすることを通して、授業実践力を高めるとともに、部員同士の交流を図ることができるようになる。

⑦ 研究発表大会

研究発表大会は、浜小社研の研究主題や研究内容をうけた個人テーマを設定した上で実践に取り組み、その実践をもとに浜小社研の研究を検証し、会員に対して広く発表する場である。

発表者は発表担当区の代表者であるが、実践については、区をあげて取り組むこととする。

⑧ 学びの充実部会（特別委員会）

横浜市内の各学校において、よりよい社会科授業が展開されることを目指し、1人1台端末の活用方法をテーマに、端末の利用が「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実にどのようなかかわっているかの視点で子どもの学びを分析し検証することで、さらなる指導の改善や学習意欲の向上に生かす。またその成果を発信する。

⑨ 役員会

横浜市小学校社会科研究会の研究活動全体を総括し、各会・部の調整を図る。

（7）研究の進め方

① 学年部

- ア 学年部では学年部長を中心に、研修会主題の研究をしていくために、研修会主題に迫るための視点をもとに、各学年の特性をふまえた学年で大切にしたい手立てを示す。
- イ 学年別研修会での授業実践提案では、研修会主題に迫るための視点に沿って討議を進めることによって、研修会主題についての研究を深化発展させていく。
- ウ 授業提案の1回目の事前研に関しては、部長・副部長を中心に、該当単元の実践例や各学校の指導計画例を持ち寄り、参考資料とする。

② 研究推進部

- ア 推進部は推進部長を中心として研修会主題に迫るための視点をもとに研修会を通して吟味することを設定する。
- イ 各学年部会の設定する「学年で大切にしたい手立て」を整合性のあるものにする。
- ウ 学年別研修会の司会や記録、研修会の振り返りアンケートの作成と集約、速報の発行を担当し、研修会を円滑に運営する。
- エ 研修会の内容を知らせるために、「研修会記録」にまとめ、ホームページに掲載する。掲載内容は提案の概要、討議内容、講師の先生の指導内容を中心とする。
- オ 年間の実践を紹介するために「研究集録」を作成する。

③ 実践者

- ア 実践提案・授業提案には会員の方々が中心となってあたる。
- イ 授業実践、実践提案者は、研修会主題に迫るための視点をもとに手立てを考え、提案の際に位置付けるようにする。
- ウ 実践提案については次のことに留意する。
 - ・子どもの姿が分かるよう、授業記録や動画を活用するなど、提案の仕方を工夫する。
 - ・1時間の授業記録、単元における子どもの考え方の変化等を掲載し、具体的な子どもの姿の変容が分かるようにする。
 - ・個人情報に関しては十分配慮する。
- エ 県小社の提案に関しても各部会での実践提案と同様の扱いとする。
- オ 研修会活動には、先輩の先生方を講師として招聘し、指導を仰ぐようにする。

④ 配慮事項

- ア 研修会での話し合いは、具体的な事例をもとに進める。各学年部で設定した手立てをもとに、研修会主題に沿った話し合いができるようにする。
- イ 地域的な偏りはなるべく避けるように授業者を決定する。また、部会だけでなく各支部においても運営、内容面で十分な協力体制がとれるようにする。（実践提案も同様とする）

（8）会員及び会費

- ① 本市教職員を対象として、年度始めに支部を通して募集する。年間を通して希望を受け付ける。
- ② 年間1,500円とし、年度始めに支部を通して納入する。